

授業概要

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を学ぶとともに、教育の目的に適した指導技術を理解する。そのために、児童・生徒の学びのプロセスを踏まえながら、主に心理学を背景とした、学力・授業・教育評価に関する理論を学ぶ。授業づくりのために必要な基礎知識や枠組みを学ぶとともに、その知識が教育実践でどう活かされるのかを考える。また、我々が受けてきた「授業」における教授や学習のあり方についても改めて問い直していく。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（教育における方法とはどういうものか）
第 2 回	これからの子どもたちに育みたい資質・能力
第 3 回	主体的・対話的で深い学びのための教育の方法
第 4 回	日本における子どもの学力の特徴を捉える
第 5 回	授業をつくるということ（子どもの学びと教育の技術）
第 6 回	教育の道具・素材・環境を考える
第 7 回	授業を支える指導技術（話法・板書など授業の基礎的技術の視点から）
第 8 回	メタ認知をどのように育てるか
第 9 回	学習の動機づけをどのように高めるか
第 10 回	学習目標をどのように設定するか
第 11 回	学力をどのように評価するか
第 12 回	現代の学校教育における情報通信技術活用の意義と在り方
第 13 回	情報通信技術を効果的に活用した学習指導
第 14 回	特別の支援を必要とする児童への対応と情報通信機器の活用
第 15 回	情報活用能力・情報モラルを育てる指導法
第 16 回	定期試験

到達目標

- ・ 授業づくりのために必要な基礎知識や枠組みについて理解する。
- ・ これまで自分自身が学習者として経験してきた「授業」や、教育実践を問う視点を獲得する。
- ・ 多種多様な学習者や環境に応じて、どのような教育方法が効果的かを自ら判断して選択できる。

履修上の注意

授業は講義形式で行うが、コメントを書くなどのワークを毎回課すので、積極的に授業に参加すること。出欠は厳密に記録にとるので、そのつもりで受講すること。

予習・復習

予習として、予め配布する資料に目を通しておくこと。
また、資料と授業の内容を併せて復習し、参考文献なども用いて理解を深めること。

評価方法

授業での取り組み（40%）と期末試験（60%）によって行う。
授業での取り組みについては、授業で課すレポート等の評価および提出状況と、授業態度なども考慮する。

テキスト

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。授業内で適宜、参考文献を紹介する。

<参考文献>

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編 文部科学省 東洋館出版社（2018）

授業概要

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を学ぶとともに、教育の目的に適した指導技術を理解する。そのために、児童・生徒の学びのプロセスを踏まえながら、主に心理学を背景とした、学力・授業・教育評価に関する理論を学ぶ。授業づくりのために必要な基礎知識や枠組みを学ぶとともに、その知識が教育実践でどう活かされるのかを考える。また、我々が受けてきた「授業」における教授や学習のあり方についても改めて問い直していく。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（教育における方法とはどういうものか）
第 2 回	これからの子どもたちに育みたい資質・能力
第 3 回	主体的・対話的で深い学びのための教育の方法
第 4 回	日本における子どもの学力の特徴を捉える
第 5 回	授業をつくるということ（子どもの学びと教育の技術）
第 6 回	教育の道具・素材・環境を考える
第 7 回	授業を支える指導技術（話法・板書など授業の基礎的技術の視点から）
第 8 回	メタ認知をどのように育てるか
第 9 回	学習の動機づけをどのように高めるか
第 10 回	学習目標をどのように設定するか
第 11 回	学力をどのように評価するか
第 12 回	現代の学校教育における情報通信技術活用の意義と在り方
第 13 回	情報通信技術を効果的に活用した学習指導
第 14 回	特別の支援を必要とする生徒への対応と情報通信機器の活用
第 15 回	情報活用能力・情報モラルを育てる指導法
第 16 回	定期試験

到達目標

- ・ 授業づくりのために必要な基礎知識や枠組みについて理解する。
- ・ これまで自分自身が学習者として経験してきた「授業」や、教育実践を問う視点を獲得する。
- ・ 多種多様な学習者や環境に応じて、どのような教育方法が効果的かを自ら判断して選択できる。

履修上の注意

授業は講義形式で行うが、コメントを書くなどのワークを毎回課すので、積極的に授業に参加すること。出欠は厳密に記録にとるので、そのつもりで受講すること。

予習・復習

予習として、予め配布する資料に目を通しておくこと。
また、資料と授業の内容を併せて復習し、参考文献なども用いて理解を深めること。

評価方法

授業での取り組み（40%）と期末試験（60%）によって行う。
授業での取り組みについては、授業で課すレポート等の評価および提出状況と、授業態度なども考慮する。

テキスト

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。授業内で適宜、参考文献を紹介する。

<参考文献>

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編 文部科学省 東山書房（2020）

高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総則編 文部科学省 東洋館出版社（2019）